六月号塾だより

発行
2022.5.20
編集
山口学習塾
山口将志
樋口淳一
矢田力椰
大崎拓己

今月号のトピックス

・一学期期末テスト対策
・サポーターについて
・欠席・遅刻の連絡について
・その他

一学期期末テスト対策

6月6日（月）から一学期期末テスト対策が始まります。まだ中間テスト対策中ではありますが、今回のテスト対策で気になっている部分を3つあげます。

①何もしていない時間が多い。

教科書を開くでもなく、問題を解くでもない。ボーっと何かを眺めている。そんな時間が多い生徒が見られます。また、そういう生徒は我々と目が合う回数が多いように思います。テストで結果を出す生徒は常に何かをやっているものです。「次はこれをやろう！今日はこれを終わらせよう！」そういう気持ちがあればボーっとする時間はないはずです。

②とにかく眠そう。

学校もあります。生徒さんによっては部活もありますので大変なのは分かります。しかし、3時間のテスト対策中、半分以上も眠気と戦っている生徒さんも見られます。ご家庭の協力をいただかなければいけない部分にもなりますが、できる限り睡眠時間を確保いただければと思います。

③学校のワークを終わらせるのが遅い。

今回のテスト対策では学校のワークが終わったかどうかを前のホワイトボードでチェックしています。やはり毎回結果を出してくる生徒さんは学校のワークを終わらせるのが早いです。もちろん、学校のワークを終わらせるのが早いということは、その後の期間で我々からの課題プリントもしっかりこなせますし、学校のプリントや学校のノートの復習もできる訳です。

すぐに期末テスト対策が始まります。以上の3点につき心当たりのある人は次回は改善して、中間テストより良い結果が取れるよう取り組んでいただければと思います。

サポーターについて

本年度は2名が就職のため山口学習塾から旅立ち、新たに5名がサポーターとして仲間に加わってくれました。新しく入ったサポーターとは、補習や質問対応、またbasicの授業で関わっている生徒さんも多いと思います。

今年入ったサポーターたちも非常に積極的で明るい卒業生たちです。皆さんが質問してくれれば喜んで答えます。遠慮せずにどんどん質問し、休み時間にはどんどん話しかけてみてください。

欠席・遅刻の連絡について

欠席や遅刻の連絡については原則保護者様からの連絡をお願いいたします。稀にですが、生徒さん自身の欠席連絡を受けた場合に実情と異なるケースがございます。生徒さんの行先などが分からないなど、安全に関わる場合があります。

生徒さん自身の連絡が続き、疑わしいケースなどはご家庭に確認することもございます。

お忙しい中恐縮でございますが、ご理解ご協力お願いいたします。

残席状況（2022年5月19日時点）

＜小学生＞
英語教室　10名
計算教室　5名
国語教室　8名

＜中学生＞
中学1年生　4名
中学2年生　2名
中学3年生　5名
Basic生　1名

中学3年生は夏休み前までで締め切る予定です。もしお知り合いで山口学習塾をご検討の方がいらっしゃいましたら、お声がけいただければ幸いです。

たまにはゲームやLINEをGoogleマップやWikipediaに変えてみよう。

かなり昔、講師の矢田がまだ生徒だったころ、一度塾だよりに書いた内容かもしれません。先日、basicの授業の休み時間にも話した内容です。

右の県境は新潟県・福島県・山形県の県境です。時間のある人は是非Googleマップで見てください。「飯豊山（いいでさん）」と検索するといいかもしれません。

県境までたどり着いたらどんどんアップしてみてください。福島の県境が面白い形になっているのが分かりますか？なんと最も狭いところで幅約50cmだとか。（下図）

つまり、新潟県から立ち幅跳びをして福島県を飛び越えて山形県に到着できる、ということです。

では、なぜこんな細長い県境になったのでしょうか。

実は飯豊山付近はもともと福島県でした。それが明治時代の廃藩置県により、新潟県に編入されました。ただ、飯豊山の神様を信仰していた福島県側の住民が猛反対をしたらしいのです。そこで飯豊山の山頂とそこまでの登山道は福島県に残すことで決着したとのことです。

当時、この話をしたときも矢田少年達に「すごい！」と言われた気がします。先日、basicの休み時間に話した時にも生徒さん達に驚いてもらえました。「先生って何でも知ってますね！」なんてお褒めの言葉をもらうこともあります。でも何のことはない。実はパソコンやスマホでGoogleマップを見て気になった地名をWikipediaで調べているだけなのです。。

塾の先生としては「小中学生はあまりスマホは使わないように」と言わなければいけない立場なのかもしれませんが、たまにはゲームやLINEの時間をGoogleマップやWikipediaに変えるのも面白いかもしれません。もちろん、ネット上の情報は注意しなければいけないこともたくさんありますし、寝不足になるまでスマホを見るなんて話は言語道断ではありますが…

（山口）

中１英語、やはり大変・・・

去年から中学生の教科書が変わり、特に中1の英語は、それまでと比べて倍近くの文法事項を覚えなければならなくなりました。英語において最も大事なのは、be動詞の文・一般動詞の文の見分けです。その見分けも、一昨年までは3か月かけでじっくり習熟していたところ、去年からは1カ月で習熟しなければならなくなりました。1カ月で完璧にするというのは、よほど勘のいい子でないと難しいです。be動詞・一般動詞の見分けもままならないままどんどん先に進んでしまって、英語嫌いになってしまう中学生も多かったのではないでしょうか。

また、英語嫌いにならないためには、英単語を暗記する力も必要になってきます。「英単語を覚えるのが苦手」と言っている生徒は、総じて英語が嫌いな印象があります。逆に言えば、「be動詞・一般動詞の見分け」と「単語を暗記する力」さえ小学生のうちにつけてしまえば、英語嫌いになるリスクはかなり減ります。

小学生英語教室では、まずは英単語を覚える力をつけていきます。授業の最初に英単語テストをして、不合格の場合は再テストとなり、翌週の授業前までに合格していただきます。そしてまた翌週の授業の最初に別の英単語のテストをします。これを毎週繰り返すうちに、単語の暗記力は自然と身についていきます。

2年前に入塾したある生徒は、入塾してすぐの頃、基本的な英単語20個を覚えるのに1時間かかっていたそうですが(最初から1時間で覚えられていれば十分すごいですが）、今では難しい単語でも10分かからずに覚えられるようになっています。また、今年の1月末に入塾したある生徒は、初めのころは英単語40個を覚えるのに1週間毎日勉強したと言っていましたが、今では1時間で覚えられるようになりました。かく言う私も、小学生の頃はmusicなどの基本的な英単語20個の暗記に3時間かかっていました。英単語を暗記することは、英語初学者にとってはそれくらい大変なことなのです。しかしコツさえつかんでしまえば、覚えるために必要な時間はどんどん短くなっていくものです。だから、何十回、何百回とテストを繰り返します。

文法に関しては、be動詞と一般動詞の見分けができるようになった後は、中学校の教科書の内容をどんどん進めていきます。昨年は、一番速い生徒で過去形まで学習出来ました。過去形は、中学1年生の3学期に習う内容です。今年度の生徒さんがどこまで行けるのか、非常に楽しみです。

（矢田）